



2021年3月期 決算説明会

2021年5月28日

日本ドライケミカル株式会社
代表取締役社長 遠山 榮一

日本ドライケミカルの成長戦略 ～従来の消防防災の概念を覆す画期的な製品開発～



次世代消防防災のキーワード

国家検定が定める性能基準を超える性能

火災を未然に防ぐ予防という新ジャンル

環境に配慮した新しい消火薬剤を追及

世界スタンダードの消防機器・薬剤を日本市場へ

近年発生した火災

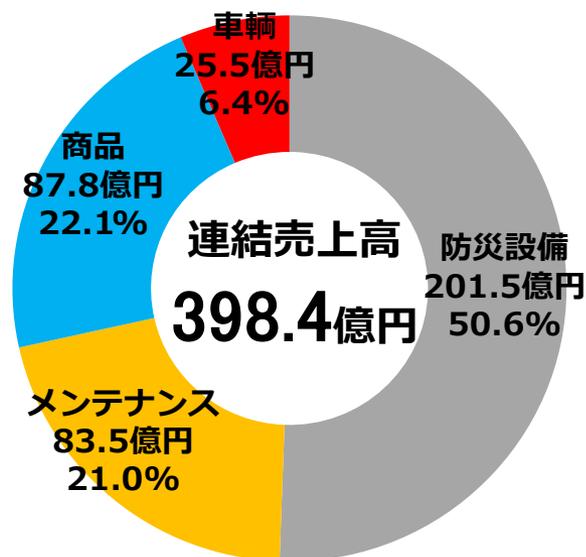
- 全国で多発する工場火災
- 大型バス出火による相次ぐ火災
- 首里城火災（2019年10月）
- 京都ガソリン放火火災（2019年7月）
- 物流センター倉庫火災（2017年2月）
- 糸魚川市大規模火災（2016年12月）

当社は、新しい技術、優れた海外製品を積極的に取り入れ、より消防防災の実態、現実に即したものに進化させ、真の安心・安全を追求いたします。

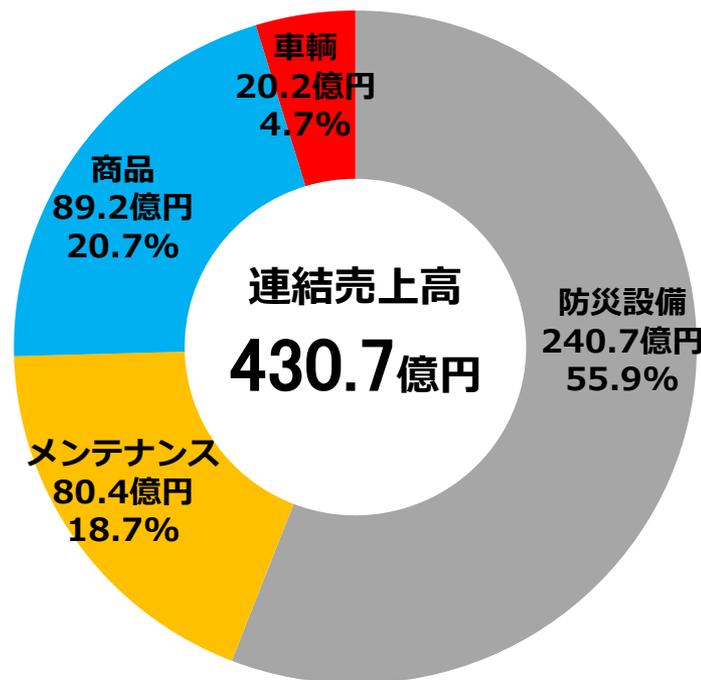
防災設備事業において採算性の良い案件受注に努めた結果に加え、プラント施設の工事案件増加及び消火設備用機器・製品の販売が増加したこと等により、売上高は前連結会計年度比3,226百万円の増収、営業利益は同421百万円の増益となりました。

	20/3実績	21/3期首予想	21/3実績	対前期比
売上高	39,846	41,000	43,073	3,226
営業利益	2,974	2,000	3,396	421
営業利益率	7.5%	4.9%	7.9%	0.4ポイント
経常利益	2,784	2,000	3,177	392
経常利益率	7.0%	4.9%	7.4%	0.4ポイント
親会社株主に帰属する当期純利益	1,584	1,320	2,312	727
1株当たり当期純利益	224円12銭	188円53銭	330円25銭	—
自己資本当期純利益率	12.0%	—	15.4%	3.4ポイント
純資産	15,997	—	18,971	2,974
総資産	41,895	—	40,025	△1,870
自己資本比率	33.1%	—	40.4%	7.3ポイント
1株当たり純資産	1,979円13銭	—	2,307円85銭	—

【2020年3月期】



【2021年3月期】



防災設備

自火報、消火設備の設計・施工



商品

消火器の製造・販売
防災用品の仕入・販売



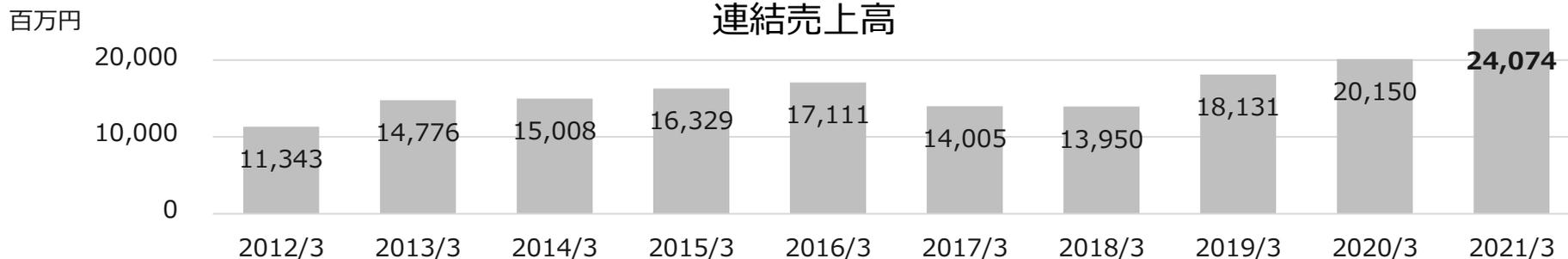
メンテナンス

防災設備の保守点検・改修



車輜

消防自動車の製造・販売



売上総利益 (百万円)	1,506	2,034	2,627	3,494	3,739	2,759	2,694	3,806	4,705	5,744
売上総利益率 (%)	13.3	13.8	17.5	21.4	21.9	19.7	19.3	21.0	23.4	23.9

事業内容

- ・ 建築防災（新設工事／リニューアル）
- ・ プラント防災（新設工事／保守・改修）
- ・ 船舶設備（新設工事／機器販売）
- ・ トンネル防災（新設工事／改修）

主要取引先

- ・ ゼネコン、サブコン（電気・空調衛生）
- ・ 電力会社、石油・化学会社 等

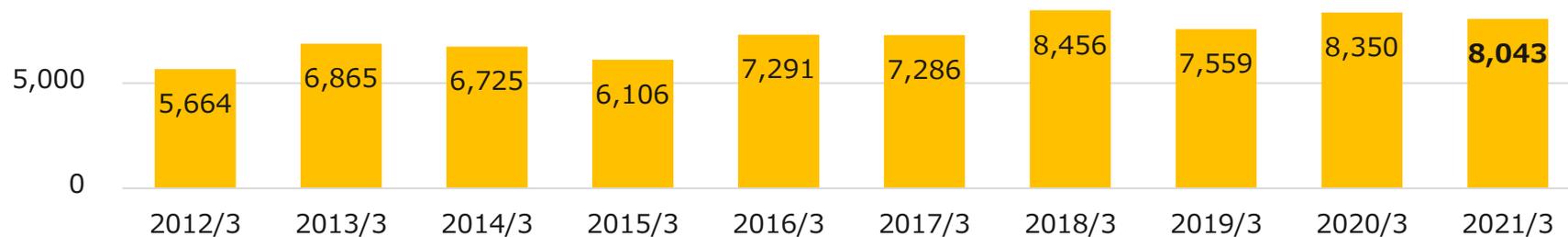
火災の感知・報知から消火まで、
建物にあわせた最新の防災システムを提供。



採算性の良い案件受注に努めた結果に加え、プラント施設の工事案件増加及び消火設備用機器・製品の販売が増加したこと等により、売上高は前年度比3,923百万円の増加、売上総利益は同1,038百万円の増益となりました。

連結売上高

百万円 10,000



売上総利益 (百万円)	2,286	2,940	2,766	2,178	2,501	2,642	3,162	2,869	3,246	3,107
売上総利益率 (%)	40.4	42.8	41.1	35.7	34.3	36.3	37.4	38.0	38.9	38.6

事業内容

- ・点検（年2回の法定点検）
- ・修繕／改修工事

主要取引先

- ・施主、建物所有者
- ・ビル管理会社、マンション管理会社

消防用設備等は、有資格者による定期点検と、その報告が義務付けられています。



新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、顧客による改修・補修工事のスケジュール見直し、あるいは設備点検の先送り等により、売上高は前年度比306百万円の減少、売上総利益は同138百万円の減益となりました。

連結売上高



売上総利益 (百万円)	744	772	689	516	532	1,104	1,170	1,105	1,203	1,281
売上総利益率 (%)	14.4	13.3	10.9	8.7	8.9	14.4	13.7	13.0	13.7	14.4

事業内容

- ・ 各種消火器、防災機器の販売
- ・ 防災用品の仕入販売
- ・ 小規模な防災設備の施工

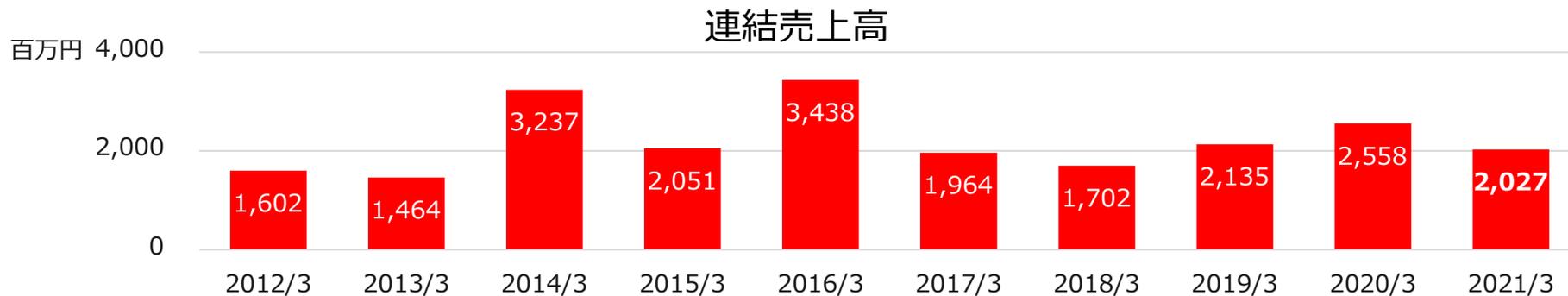
主要取引先

- ・ エクスチン会、代理店、防災会社等

NDCは、アルミニウム製消火器のパイオニア
特長は、軽量・耐食性・リサイクル性です。



小型工事案件の引き合いが好調だったこと等により、売上高は前年度比140百万円の増加、売上総利益は同78百万円の増益となりました。



売上総利益 (百万円)	173	121	573	229	562	71	△161	118	274	168
売上総利益率 (%)	10.8	8.3	17.7	11.2	16.3	3.6	-	5.5	10.7	8.3

事業内容

- ・ 各種消防自動車の受注設計／製造
- ・ 各種特殊車両の受注設計／製造

主要納車先

- ・ 官公庁、消防署
- ・ 電力会社、石油化学会社 等

NDCの消防自動車は、
専門的なニーズに最新の技術で応えます。



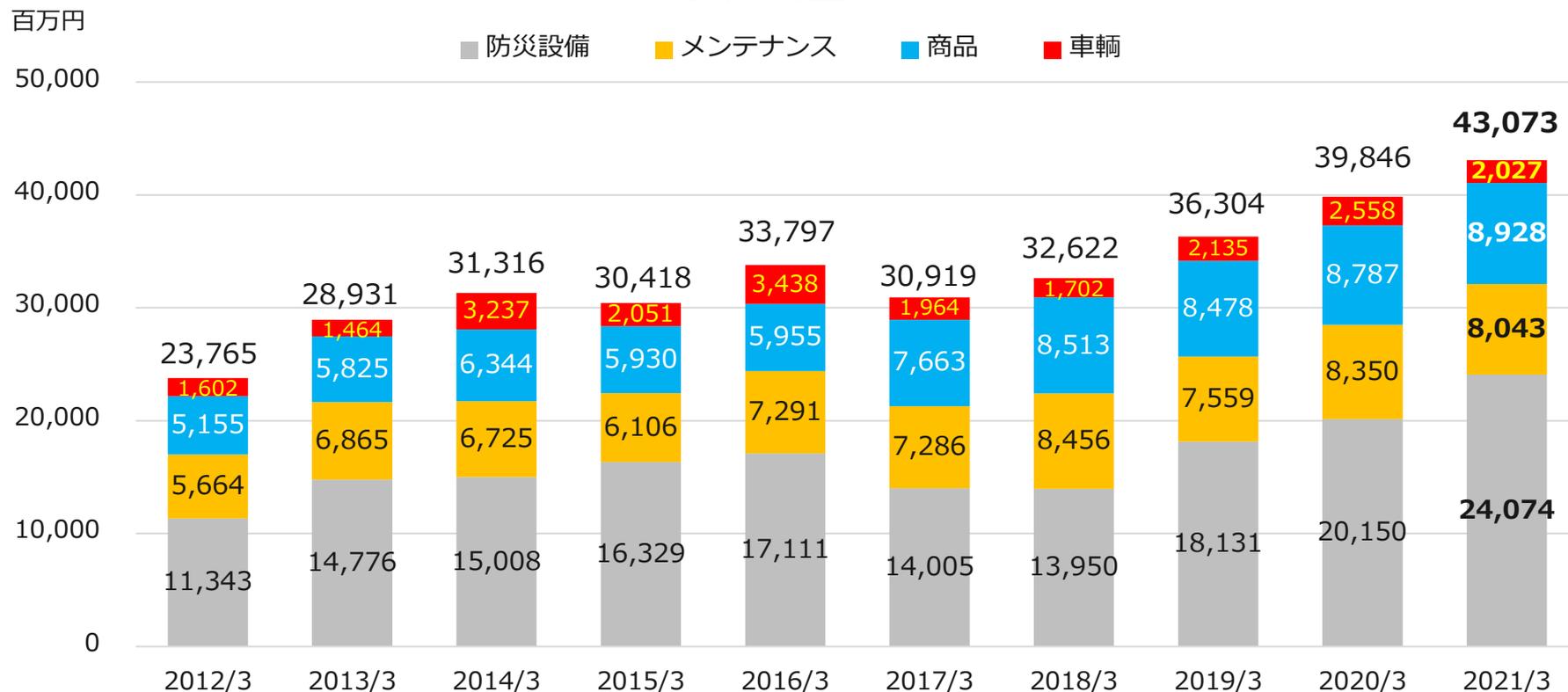
化学消防ポンプ自動車



粉末専用車

大型車輜及び特殊車輜の納入が前年度より減少したこと等により、売上高は前年度比530百万円の減少、売上総利益は同106百万円の減益となりました。

連結売上高



営業利益 (百万円)	1,041	1,612	1,688	1,568	1,865	1,268	1,109	1,702	2,974	3,396
営業利益率 (%)	4.4	5.6	5.4	5.2	5.5	4.1	3.4	4.7	7.5	7.9

連結貸借対照表

(百万円)

	2020/3/31	2021/3/31	対前期比	増減率
資産の部				
流動資産	26,763	24,939	△1,824	△6.8%
固定資産	15,131	15,085	△45	△0.3%
有形固定資産	8,844	8,955	111	1.3%
無形固定資産	1,456	1,249	△207	△14.2%
投資その他の資産	4,830	4,880	49	1.0%
資産合計	41,895	40,025	△1,870	△4.5%
負債の部				
流動負債	19,698	16,619	△3,078	△15.6%
固定負債	6,199	4,433	△1,765	△28.5%
負債合計	25,897	21,053	△4,844	△18.7%
純資産の部				
株主資本	13,413	15,515	2,102	15.7%
資本金	700	700	-	-
資本剰余金	3,620	3,620	-	-
利益剰余金	9,349	11,451	2,102	22.5%
自己株式	△256	△256	-	-
その他の包括利益累計額	442	641	199	45.0%
非支配株主持分	2,141	2,814	673	31.4%
純資産合計	15,997	18,971	2,974	18.6%
負債純資産合計	41,895	40,025	△1,870	△4.5%

等連結会計期間末の財政状態は、売上債権および仕入債務の減少、借入金の返済等により総資産が前期末比1,870百万円減少し、資産合計は40,025百万円となりました。自己資本比率は40.4%となりました。

(百万円)

	2020/3	2021/3	対前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	△731	5,099	5,831
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,218	△505	3,713
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,658	△3,758	△8,417
現金及び現金同等物の増減額	△301	866	1,167
現金及び現金同等物の期首残高	3,669	3,650	△19
現金及び現金同等物の期末残高	3,650	4,516	866

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは税金等調整前当期純利益3,322百万円、減価償却費676百万円、売上債権の減少2,221百万円による収入等により5,099百万円の収入となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少、長期借入金の返済、社債の償還による支出等により3,758百万円の支出となりました。

2022年3月期

(百万円)

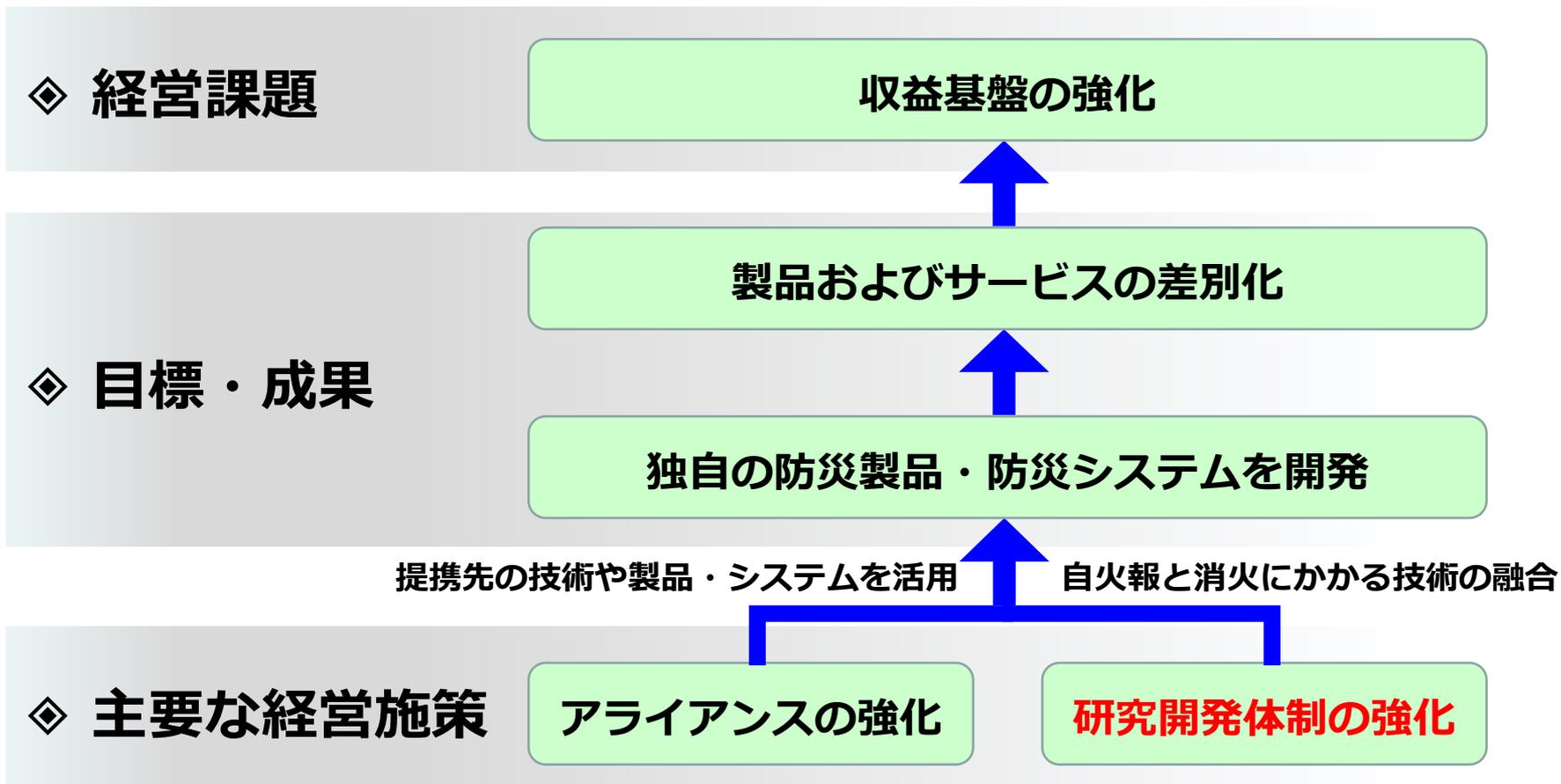
	第2四半期（累計）			通期		
	計画	前期実績	増減率	計画	前期実績	増減率
売上高	19,700	19,009	3.6%	45,000	43,073	4.5%
営業利益	780	880	△11.5%	2,500	3,396	△26.4%
経常利益	780	847	△8.0%	2,500	3,177	△21.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	500	477	4.7%	1,750	2,312	△24.3%

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により厳しい状況にあるなかで、消火・防災業界におきましても、なお予断を許さない状況が継続するものと想定されますが、大都市圏を中心とした大規模再開発案件、さらには社会全般における防災意識の高まり等、需要喚起の要因もみられます。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、今後状況が大きく変化し、業績予想修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

成長戦略

さらなる飛躍へ
百年、2百年、3百年を生き抜く企業へ



日本ドライケミカルの成長戦略 ～従来の消防防災の概念を覆す画期的な製品開発～



次世代消防防災のキーワード

国家検定が定める性能基準を超える性能

火災を未然に防ぐ予防という新ジャンル

環境に配慮した新しい消火薬剤を追及

世界スタンダードの消防機器・薬剤を日本市場へ

近年発生した火災

- 全国で多発する工場火災
- 大型バス出火による相次ぐ火災
- 首里城火災（2019年10月）
- 京都ガソリン放火火災（2019年7月）
- 物流センター倉庫火災（2017年2月）
- 糸魚川市大規模火災（2016年12月）

当社は、新しい技術、優れた海外製品を積極的に取り入れ、より消防防災の実態、現実に即したものに進化させ、真の安心・安全を追求いたします。

瞬時に薬剤を広範囲に放射、ガソリン等の蒸発を抑え込み、火災を抑制する火災抑制剤放射器

特長



2.5Lの火災抑制剤を
約1.8秒で瞬時に放射



1本で最大10m²(6畳)
の広さをカバー



約5kgで持ち運び簡単な
アルミニウム容器



日本初
火災抑制剤
放射器

推奨設置場所



空港

危険物施設

港湾

イベント施設

公共交通機関

金融機関

消防機関

報道機関

神社仏閣

市区町村庁舎

コンビニエンスストア

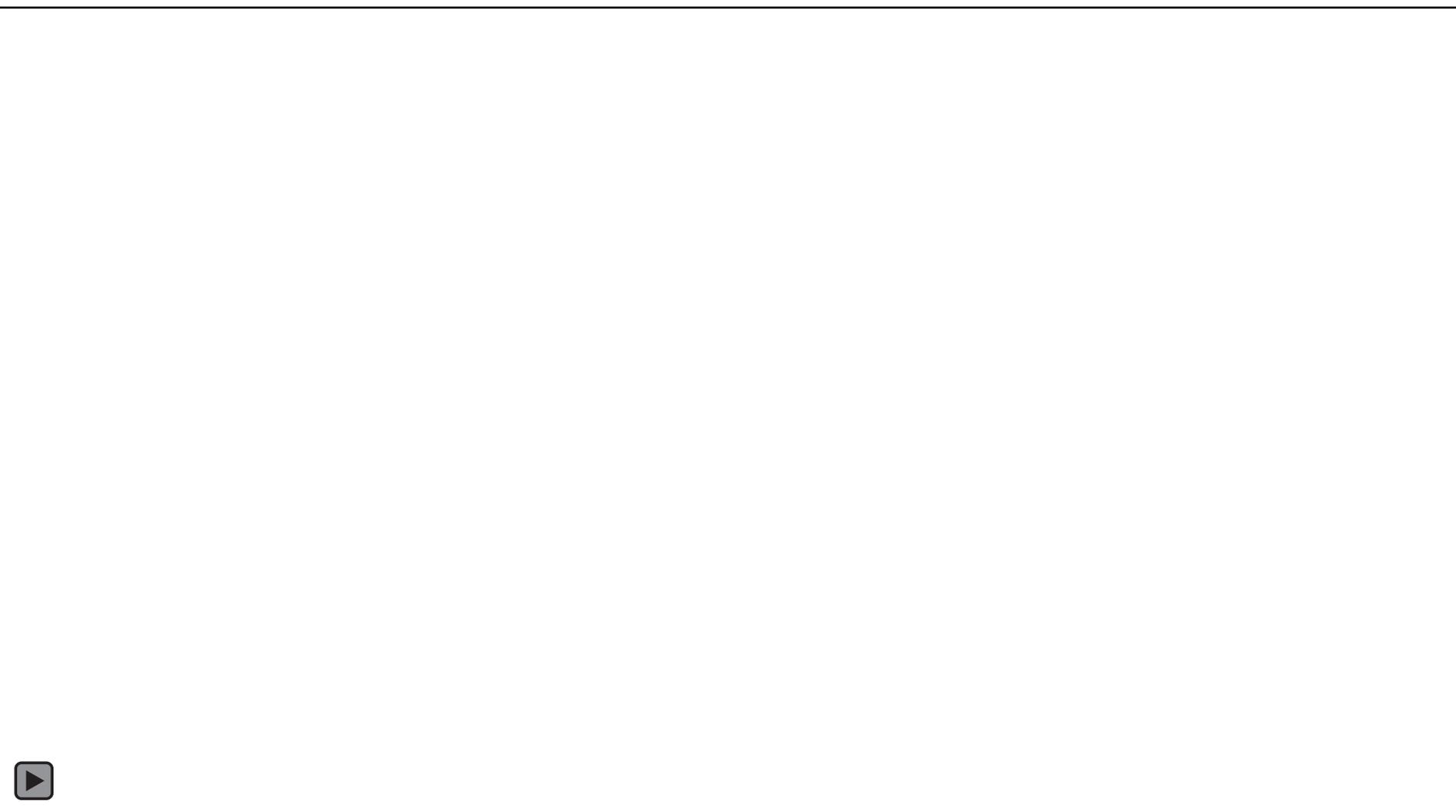
ロードサービス業

自衛隊

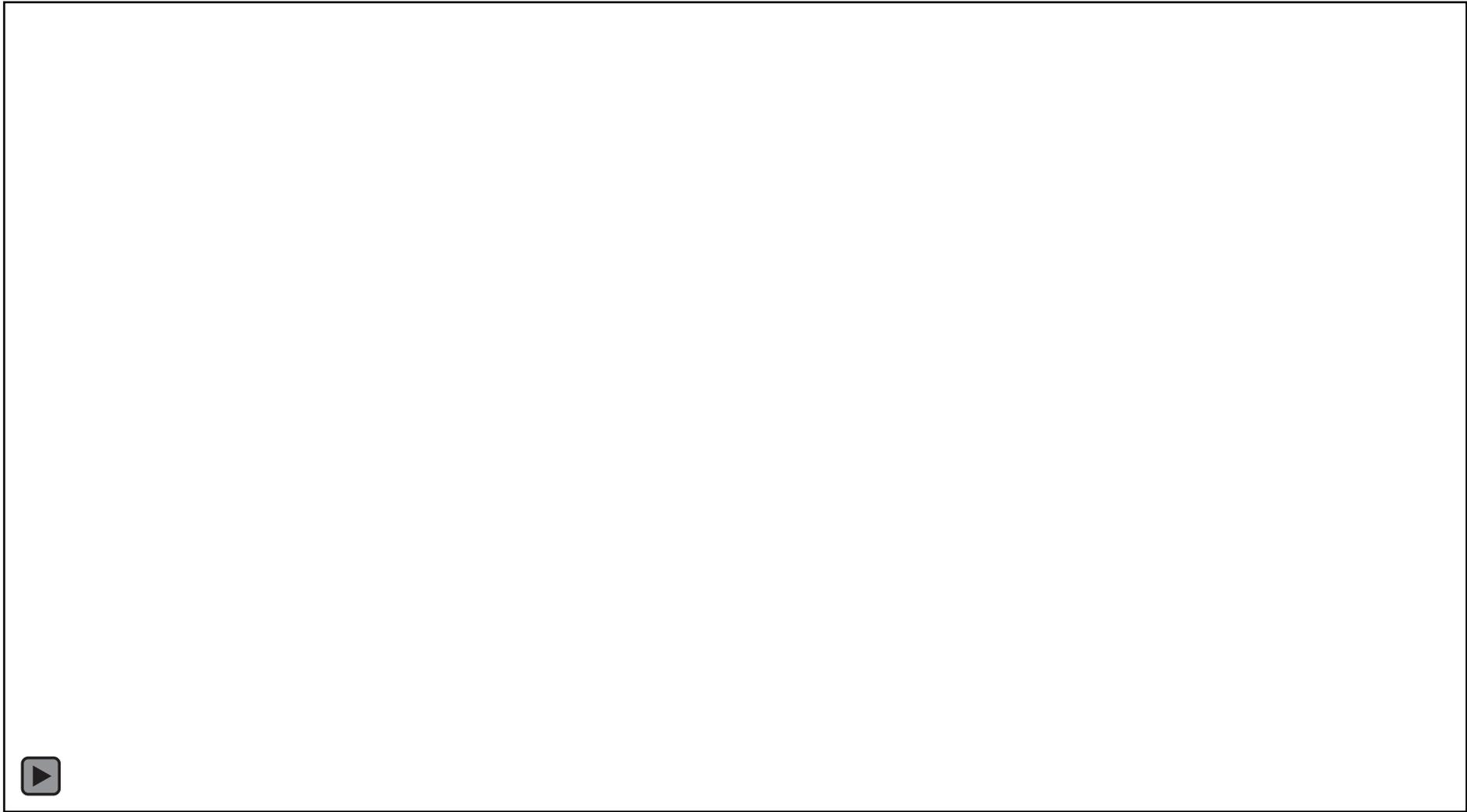
ガソリンスタンド



資本業務提携先のALSOKと共同で営業推進



クイックスプラッシャー



NDC独自の新しい消火薬剤による業界最軽量の住宅用消火器を開発中

特長

高性能でオールマイティな消火力

(浸透浸潤性、炎抑制、石鹼化反応)

様々な火災に対応可能

- ◆ ストープ火災
- ◆ 天ぷら火災
- ◆ 電気火災
- ◆ 金属火災



高環境性薬剤

PFOS、PFOA等を使用していない
フッ素フリー薬剤

業界最軽量

アルミ容器の採用により2kg以下
業界最軽量 (薬剤量 : 0.9L)

優れたデザイン性

オレンジ・黄・青
3色のカラーバリエーション
室内インテリアに調和する
樹脂カバーを採用したデザイン

ご視聴ありがとうございます

本資料には当社の経営戦略などが記載されています。
これらの将来の見通しに関する記述は、現時点での仮定に基づく
ものであり、当該仮定を必ず保証するものではありません。

商号	日本ドライケミカル株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード：1909)
設立	昭和30年4月23日
所在地	東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー
代表者	代表取締役社長 遠山 榮一
従業員数	連結1,032名 (2020年3月末現在)
資本金	700百万円 (2020年3月末現在)
連結売上高	43,073百万円 (2021年3月期)
事業所	札幌、東北、関東、東京、名古屋、北陸、大阪、九州
連結子会社	北海道ドライケミカル、日本ドライメンテナンス 総合防災、NDC Korea、広伸プラント工業